

旭陵同窓会関西支部の発展のために



旭陵同窓会関西支部長
空谷俊和

ところで、わが同窓会も、発足以来着実な歩みを続けています。総会も年1回ではあります、確実に多数の会員の参加を頂いております。会誌も、今回で2号目を刊行することができました。また今回は、かねてから懸案であった講演を実現できました。



旭陵同窓会会长
加藤康憲

本年度も旭陵同窓会関西支部総会が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

会長として三期五年目を迎える私、六月十五日の本部総会に於いてその決意を新たにしたところですが、同窓会本部は他に、副会長一名、幹事一名の増員もいたしました。副会長には須磨東京支部長と同期の小田保君、幹事には四十一期で現 P.T.A 会長でもある荒川太郎君にお願いしました。ま

ここで、本校の現状について少しづつあります。かりふれると、進学においては入りたい大学、自ら求めるものへのアプローチへの指導に全力を傾けております。年によって生徒の志望には若干の差異もあり、過去との比較も難しいものがありますが、いわゆる難関校には、

後とも先輩諸兄姉の一層のご指導・鞭撻をお願い申し上げます。

さて今回は、故郷から高名な作家の古川薰さんをお招きして、御講演をして頂けることとなりました。同氏には「霸道の鷺 毛利元就」の著作などがあり、折しもNHKでは、大河ドラマ「毛利元就」を放映中であります。郷土の先輩からは、興味深いお話をお聞きできるものと期待しています。会員の方々が多数御参加下さるようお願いします。

役員も努力して いますが、会員の皆様
からも御提案頂きたいと思います。す
ぐにも実現できるわけではありません
が、将来の目標として、今後とりくん
でゆきたいと思います。

従いまして八十周年については、単に学校、同窓会だけの喜びでなく、下関市における西高として存在を市民の皆様にも喜んでいただける形が理想的かと考えます。

このたび、同窓会だけでなく学校、旭陵教育財団、PTA一緒になつての実行委員会を近く発足させますが、関西支部からも支部長はじめ多くの方々にご参加願い、例えば講演会講師など

清祥のことと心からお喜び申し上げます。平素は、遠く関西の地から、本校教育振興のためにご理解とご支援を賜つておりますことに、厚くお礼申し上げます。

また、本日は平成九年度の旭陵同窓会関西支部総会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。この春には、卒業生三三七名を皆様の仲間として新たに迎えていただきました。

人の部で、柔道一位、剣道一二位、卓球女子二位を獲得し、全国大会出場を果たしました。受験という重圧に押しつぶされることなく、文武両道をきわめようとしている在校生たちを、これからも温かく見守つていただければ幸せに存じます。

わが支部の総会も、今秋第4回目を迎えることができました。これも幹事の方々の献身的な努力と、会員の皆様の御協力の賜物であり、心からお礼申し上げます。

談事業なども手がけたいものです。これらの実現には、強力な事務局が必要であり、専任の担当者を置く必要があります。それは財政基盤の確立が不可欠です。原資の確保については、

現在の姿は、先輩である皆様方一人一人の努力によりもたらされたものであることは言うを待ちませんが、下関市という地域とも又深い繋がりを保つてきたことは間違ひありません。

A black and white portrait of Kenzo Ono, a man wearing glasses and a suit, set within a circular frame.

ますか……）陸上競技部は、県予選を勝ち抜いた十名が中国大会に出場し、百十米ハーフで県高校新記録を出した桂岡君がインターハイに出場することになりました。文化部では、昨年団体部が県大会で優勝し、全国大会に出場する

姿を目の当たりにするのは喜びに耐えます。
支部役員はじめ会員の皆様の熱意と
ご尽力に深く感謝申し上げる次第で
せん。

旭陵關西

発行人
旭陵同窓会関西支部長
空谷俊和
高槻市真上町3丁目13の1
医療法人祐生会
みどりヶ丘病院内
印刷所(有)高岡芳清堂
TEL.0729-96-0083

お聞きするに及んでは、喝采の感ひと
ふうだ。

相も変わらぬ熾烈な競争があるにもかかづ、全国の中間二五にて競つて

平成9年度相陵同窓会関西支部総会案内

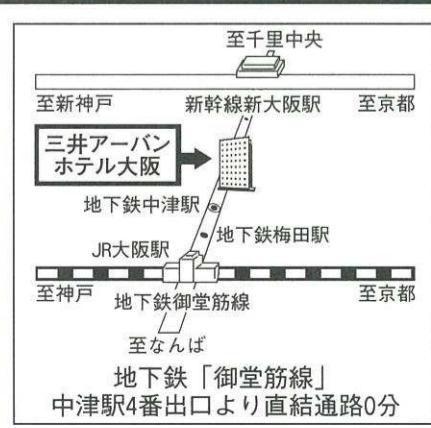
○日 時：平成9年9月28日（日）11:00～15:00
○場 所：三井アーバンホテル
（大阪市北区豊崎3-18-8 TEL.06-374-1111）
○来 賓：加藤同窓会長、本部役員、天野校長他
○式次第：11:00～11:30 総会
11:30～12:30 講演

直木賞作家 古川 薫氏
「歴史から見た山口県と関西」
12:45～15:00 懇親会 福引を企画しています
○同窓生をお誘い合わせの上是非ご出席下さい。
なお、同封葉書にて出欠の連絡を8月末日までにお願いします。
(返信の場合に名簿整理上必ず記入をお願いします)

古川薰氏の紹介

大正14年下関生れ、山口大学卒業後山口新聞の記者を経て、本格的な作家活動に入られる。昭和40年「走狗」で直木賞候補、以後9回候補に上る。平成3年「漂泊者のアリア」(下関出身のオペラ歌手藤原義江の生涯を描く)で直木賞受賞。「桂小五郎」上下、「だれが広澤參議を殺したか」「維新の長州」「霸道の鷺毛利元就」「閉じられた海図」「夢の海道」等多数。

現在、下関市長府に在住、著作や文化活動を活発に続けています。



「新緑の奈良に集う」

谷壽(32期)

平成9年4月6日(日)小雨。午前11時近鉄富雄駅集合。十数名参加(内数名女性)目指すは、料亭「百樂荘」徒歩5分。全館離座敷となつており、山まるごと庭園となつており、周囲を気にせず、会席料理を楽しむ。生憎、この春は、暖かく多雨だった為、桜は大半は散つていたが、雨に光る新緑を充分味わうことができた。色々と話に花が咲く。全くの同年代なので、共通の話題は定年に集中した。今まで気楽とは言わないが、サラリーマンだった者は、自営業の者が羨ましくて仕方がない。(これは小生が感じたことです)早く独立した人はそれなりに随分と苦労され、現在を築き上げた訳だから、立派な勲章だと思います。定年後について、A君は、保険取扱いの資格を生かし独立、B君は、旅行取扱いの資格を有し先般独立の案内をいただいた。C君は、とりあえず2年くらい体をリフレッシュするため、世界各地を旅行すること。H子さんは、栄養士の資格を持ち、料理学校の先生になる。

:etc

それに較べ小生は、社会人になつて38年、営業一筋、飲む、打つ、ショッピングの人生に明け暮れ、あと一年したらどうなるのか。幸い料理を作るのが好きなので、調理師免許でも取ろうかと、昨年暮れから予備校に土日通り、5月20日京都で受験した。末は、焼鳥屋の親父が皿洗いかと思っている。

さて、お開きとなり、隣り駅の学園前まで歩き、「大和文華館」へ行き、朝鮮の美術を鑑賞する。絵画、彫刻、漆器、陶磁器、どれを見ても中国文化との区別がつかない。改めて中華文化の

系路をかいま見た感がある。学園前で解散するも、難波で数名の「帰りたくない症候群」と顔を合わせた居酒屋で、一杯呑み交わし、南海サウスタワー・ホテルのスカイラウンジで夜景を眺めながらカクテルに酔い、楽しい充実した一日を閉じた。

栗屋君、瀬戸口君、また、来年も楽しみにしています。



千田愛子(32期)

栗屋君、瀬戸口君、また、来年も楽しんでいます。

いつも美しい名文に彩られた案内状を手にできる時、お世話を人に感謝しながら、自分の仕事や九十才になる母の世話に追われる毎日ですが、元気で皆様にお会いできるよう、母をショートステイに預けたりなど段取りを急ぐ私です。

私の下関は、関西小学校卒、文洋中学校卒、西高入学、南高卒業という歴史の中になります。これまでに案内状を受け取りながら、何らかの都合で出席できなかつた同期のなつかしい友達のお一人、お一人のお顔が脳裏に浮かびます。お元気でしたら、どうぞこれからでも集いましょうよ。私も、自身の足で出席できる限り、今後も出席して皆様と乾杯させていただきます。

「あ! 西高の同窓会: しかも関西地区として開催される」という案内状をいただき、「嬉しい! どなたが出席されるのかしら?」誰にお会いできるのかしら? と、心を躍らせて「出席します」とお返事をボストに投函しました。勇み足で出向いて、関西在住の我が同期の桜にお会いできた、昭和55年の第一回会合から数えて、早くも十数回の会合を重ねることができました。これが、我が旭陵同窓会三十二期会関西支部です。

「野に球と遊ぶ」

角野幸一(35期)



「黄泉」で芝刈り

小野宗司(43期)



この十数年間、種々お世話をいただきました、栗屋保昌様、瀬戸口房康様には、本当に心から感謝の気持ちを込めて、「有り難うございます」も尚一層宜しくお願ひ申し上げます」とお礼とお願い申しあげたいと思いまます。また、その間、ご出席下さいました皆様について、色々お世話をかけ、また楽しませていただきましたことの数々が深く広く脳裏に焼き付いております。

いつも想い出す一コマの中で、今はもう天国に召された、野田尚様、熊野滋人様も交えて一緒にゴルフを楽しんだ十三年前の風景や、女性ばかりの一

この春、池田カントリークラブで、旭陵35期同期会ゴルフコンペが開かれ、一日楽しく過ごしました。参加者は9人で、35期以外にも31期の内藤さん毎回、32期の森下さん2回目、56期の山田さん毎回参加され大変に盛り上がりました。この春、池田カントリークラブで、

本ゴルフコンペの始まりは、3年前、関西旭陵会がスタートした時に、35期の仲間でゴルフの話しが持ち上がったのがきっかけです。第1回は平成6年7月にレーキスワンカントリークラブにて行われ、下関から藤本正三君が特別参加され、優勝カップを寄贈して頂きました。その後第2回は平成7年に大阪ゴルフクラブで行ない、今回が3回目になります。優勝カップには、第1回 藤田克雄、第2回 米谷友則、第3回 角野幸一のリボンがついています。勝敗はオネストジョンで決めましたので、実力の程はわかりません。

第4回は今年の秋に、藤田君の紹介で小野グランドカントリークラブにて計画しております。

幹事は、今回もまた古島君にお世話をになりますが、よろしくお願ひします。我々もいい年代になつてまいりまして、時には仕事を離れ、旭陵会のみなさんと年に一回ぐらいゴルフを楽しみ、旧交を深めることも大切なことだと思います。どうか多くの参加者をお願いします。33期以外の方も是非ご参加ください。本会が細く長く続きますことを願っています。

オリエンタルGCのゆつたりとしたクラブハウスのレストランで、風呂上がりの快い疲れの中、ビールを飲みながら、コンペの成績を眺めている。「えつ、10人もいて、百を切つたのが物部君一人だけ?」「皆仕事一筋なんだよ」芝刈りの腕の方は、この程度だつた。阪急三宮駅の北側、徒歩1分のところに、「味鉄」という和牛専門店がある。ここがコンペの打ち上げの会場となつた。店長の安田君が出発大奉仕で招待してくれた。岩間君、門田君も駆けつけてくれた。優勝は坪内君。ちょっと待つた。優勝カップの寄贈者がそれ、持つて帰られた。優勝は坪内君。「ちょっと待つた。」その一言で、カップはこの店に安置され、次回の優勝者を待つことになった。奥田君や澤井君の軽妙な話術とジョーク。合いの手を入れる木原君、永富君。特別メニューの極上の和牛を賞味しながら、いつまでも笑いの絶えない一日であった。次回は、10月。今回会えなかつた、今橋君、齊賀君、花本君にも会えることを楽しみにしている。

先日、京都から梅田に帰る阪急電車の中では、老紳士と一緒にになつた。豊饒とし大正2年生まれである。これから、同窓会に出席するのだという。「だんだん同期の人がいなくなってしまってねえ。」寂しそうに、でも少し誇らしげに:

医療法人祐生会

みどりヶ丘病院

診療科目:

内科、消化器科、小児科、外科、脳神経外科

整形外科、眼科、歯科、理学療法科、麻酔科

放射線科、人間ドック

ベッド数: 333床

理事長 甲斐敏晴(31期)

〒569-11 0726-81-5717(代)

大阪府高槻市真上町3丁目13番1号

★広い機能訓練室、天然温泉のある施設

みどりヶ丘老人保健施設

ベッド数: 入所100床・通所50名

理事長 甲斐敏晴(31期)

〒569-11 0726-92-3111(代)

大阪府高槻市真上町3丁目13番1号

野瀬歯科

準予約制 9時半~12時半

4時~7時半

休診 土午后・水・日

院長 野瀬清(第17期)

〒607 京都市山科区竹鼻竹御道町77

「JR山科駅」南歩5分・「地下鉄山科駅」南歩3分

(075) 581-0144

大阪に住んでまた働いてみて

大阪ファンから最近の大阪にひとこと

倉本卓次(33期)

十九年振りの大阪で挨拶回りの折、ある高齢の経営者から「税金を納めんところ、クルマのマナーの悪いところは一致しとるそうで、いづれも大阪が日本一や」と聞かされました。税金とNHKについては、何となくお上嫌いということで拍手を送りたい気持ちが動きますが、クルマのマナーとなると、これは、実際問題として驚きました。路上駐車を注意された方が威張っています。居直る姿が当たり前というのではせつから私の好きな大阪弁のタンカが、唯の下品になるだけです。サラリーマンとしては東京の方が長くなりましたが、その間、東京の知つたかぶりの口のきき方、東京が分かつたら日本全国が分かつたような手合いを随分どやしつけたものです。大阪の悪口を言う奴には酒を注がない、心情大阪派でしたが、この度は、少々がつかり落ち込んでいるしまつです。しばらくの間、新聞ダネになる悪い会社が続きました。(今、ようやく東京の大会社になりましたが)その関係者たちが報道記者たちに、「大阪商法」と居直っている姿など、全く腹の立つ思いです。いつから、どうボタンのかけ違いが起きたのか。「大阪八百八橋の中、官が作ったのは一割もない、民が金を出し合つたもの。しかも金を出した者の名前がついている橋はない」という大阪人の心意気はもう昔のものですが「お前さんナ、金を貯めるなら、(三カク)言つてな、義理欠く、恥かく、情欠く、これを実行せないかん」と、若い私をからかつたお得意の社長さん達は、大抵びっくりする程、金を貯めていないというのが大阪人の



延岡から転勤して来て
蒹清健治(42期)

今年、1月の高槻の基礎研究所への転勤命令により2ヶ月の単身赴任後、高槻市真上町へ引っ越しした。仕事の方は、現在スパンデックスという染色可能なゴムのような糸の研究を行つてゐる。水着やパンティーストッキングに使用される糸である。九州大学で高分子の研究をやつた関係で、旭化成に入社以来、織維関係の仕事が多く、そのため思ひ、役不足を承知で引き受けた

帰郷する年ごとに「下関弁」が耳につくようになってきた。それだけ大阪人になったのだろう。そこで、最近大阪に来た三人の方に大阪を語つてもらい、忘れかけていることを思い出してみたい。

いいところでした。しかし、どうやら

最近は、大阪の人自身がとんでもない誤解をしているそうで、本当に「三カク」を地で行くことが大阪と思いこんでいる節があります。経済界の偉い人達の中にも、経済研究クラブと新地のクラブの境目がつかない人、財界の椅子ばかり気にする人が少し眼につきませんか。

大阪を核とした関西地区、人口二千万人、GDPは世界の国々の中で七番目、イギリスより下でカナダより上、三つの個性ある百万都市を持ち、東京とは異なる歴史、文化、価値観を持つ人々。これを理解しようとはせず、單一の日本人、單一の経済国としてしか外に語れない東京の政官界に、きっと「モノ」の言えるリーダーの出現が欲しいところです。

(と文句を言ながら、日曜は、家内とせつせと「歴史街道」を手に歩き回っています。上方はやはりすごいといふのが実感です)

教育関係の違いにも驚く。殆どの子供が塾通いで、学校もそれを前提にした教育を行つてゐるところもあると聞く。田舎の学校の先生は熱心な先生が多く、高校でも塾に行く子供は少なかつた。

転勤してきて感じるもう一つのこととは、高齢の独身者の多いことである。これは旭化成だけの異常現象かも知れないが?聞いてみると結婚する気はあるらしい(?)が相手がいないのだと

「大阪地区に引っ越して来て、感じるのは、高齢の独身者の多いことである。これは旭化成だけの異常現象かも知れないが?聞いてみると結婚する気はあるらしい(?)が相手がいないのだと

中学生に進学した4男との3人暮らしが始まつたからである。

延岡の田舎でのんびり生活してきたので、車の多いこと、それにによる道路の渋滞には閉口する。特に、高槻駅前は道路100m程進むのに5分もかかり、満員のバスの中でこれら歩いた方が速いといらざるが、他の人は慣れているのか、諦めているのか平気な顔をしている。

また、車の排気ガスの所為か大気汚染や騒音がひどいと感じる。そのため、わざわざ遠い所に家を建てて1時間も掛けて通勤している人も多い。地価が高いため、狭い敷地に3階建てで、1階は車庫にしている家の多いのにも納得する。

引つ越して来てまだ間がないので感じるかも知れないが、近所付き合いが薄い感がする。最近の凶悪な犯罪の発生、近所での空き巣事件の多発、痴漢の出没などはこの事と関連があるよう気がする。

東京へ行つてみるとやつぱり人・車に酔つてしましました。千葉県我孫子市から上野まで、通つていましたが、松戸駅での乗降客の多いこと、いつも駅のホームは溢れんばかりの人・人・人。近くの国道6号線は、早朝から渋滞気味です。

しかし、さすがに東京は文化の中心。博物館、美術館が数えられないほどあります。昔美術や歴史の教科書に出ていた名画の本物に何度も出会い感激しました。家内はオペラも楽しんだようです。

また、奇抜なファッショントエキゾチック料理(特にイタ飯)に出会える六本木から原宿、都会的センス溢れるゆりかもめに乗つてお台場、下町の風情が残る浅草、寅さんの柴又、もんじ

め女性の身に着ける物にも縁が深い。入居した家は名神高速のすぐ南の急坂の上の借家であり、自転車で出かけた時は楽だが帰りはしんどい。しかし、年齢のことも考慮に入れ運動不足を補うために敢えて選んだ坂の上の家である。

次第である。若い時には、同窓会なんて何時でも行けるから後でいいや!と思つていたが、最近は、何とか都合をつけて出席したいと思うようになつてきた。懐かしい顔を見たいものである。

「もつと感じたい街・関西」 伊藤隆一(43期)

伊藤隆一(43期)

下関で19年間過ごした後、憧れの京都で15年、第三の故郷(子供にとつては本当の故郷)となつた滋賀県甲南町(甲賀忍者の里で、たぬきの置物で有名な信楽にも近い緑多き山紫水明の地)で14年過ごしてきましたが、昨年転勤で花の東京へ行きました。

しばらくは、東京暮らしと思つていましたが、また転勤で甲南町へ戻つてきました。勤務地は大阪です。

下関には両親が健在で、1~2回/年帰りますが、懐かしい風景(関門海峡、火ノ山、風師山、日和山公園の高杉晋作像、山陰の海岸線)と美味しい魚(河豚や磯魚)に会えるのが楽しみです。色々な街に出会いましたが、下関は住みやすい街だと思います。昨年文洋中学校、筋ヶ浜、伊崎へと散策し(小・中・学校時代に歩いた道で、30年振り)、非常に懐かしく思いましたが、筋ヶ浜の砂浜が小さかつたこと、伊崎までの道が近かつたことを意外に感じました。

東京へ行つてみるとやつぱり人・車に酔つてしまつた。千葉県我孫子市から上野まで、通つていましたが、松戸駅での乗降客の多いこと、いつも駅のホームは溢れんばかりの人・人・人。近くの国道6号線は、早朝から渋滞気味です。

しかし、さすがに東京は文化の中心。博物館、美術館が数えられないほどあります。昔美術や歴史の教科書に出ていた名画の本物に何度も出会い感激しました。家内はオペラも楽しんだようです。

また、奇抜なファッショントエキゾチック料理(特にイタ飯)に出会える六本木から原宿、都会的センス溢れるゆりかもめに乗つてお台場、下町の風情が残る浅草、寅さんの柴又、もんじ

アムール 美容室
beauty salon Amour

千田愛子(32期)

〒662 西宮市菊谷町1-28

(阪急電車夙川駅下車徒歩7分)

TEL 0798-72-4185

FAX 0797-31-8367

地球のシステムを解明するために、あらゆるボーリングを手がける

建設大臣登録 資料8第1640号

京阪ソイル株式会社

代表取締役

六島廉太郎

営業部長

瀬戸口房康(32期)

調査技術部 TEL 06-784-1720 FAX 06-784-1721

本社 〒536 大阪市城東区古市3丁目1-1-501 TEL 06-939-8238 FAX 06-932-1428

株式会社エフエム伏見 住友重機械工業(株)大阪支社 井上克也 (33期)	石坪英郎 (18期)	鹿島建設(株)関西支店 岡本三樹 (33期)	末光久 (42期)	松下電器産業株式会社 島本定昌 (43期)	不動建設株式会社 島本定昌 (43期)
京都ステーションセンター株式会社 空谷俊和 (27期)	電話 075(600)0845	(株)博報堂関西支社 倉本卓次 (33期)	電話 06(536)7810	東洋紡績株式会社 今橋聰 (43期)	電話 06(949)2257
医療法人祐生会みどりヶ丘病院 甲斐敏晴 (31期)	電話 075(365)7512	株式会社富士銀行 古島正晴 (35期)	電話 06(881)5501	株式会社阪急メディアックス 岩間之三 (43期)	電話 0775(21)1488
(社)奈良まちづくりセンター 黒田睦子 (31期)	電話 0726(81)5171	株式会社鴻池組 福田猛彦 (35期)	電話 06(600)02051	株式会社阪急メディアックス 奥田一夫 (43期)	電話 0798(66)8833
株式会社クボタ 内藤尚 (31期)	電話 0742(26)3476	鋼洋株式会社 後田敏夫 (42期)	電話 06(244)3733	松下電工株式会社 小野宗司 (43期)	電話 0798(66)8833
近畿マシナリー株式会社 瀬戸口房康 (32期)	電話 06(648)2423	旭化成工業(株)基礎研究所 兼清健治 (42期)	電話 06(539)7506	レジノカラー工業株式会社 門田宰 (43期)	電話 06(908)7854
株式会社クサツウエスト 谷壽 (32期)	電話 0729(24)20508	大洋真珠株式会社 川本俊郎 (42期)	電話 0726(55)4567	有限会社クレア 坪内邦一 (43期)	電話 06(343)5272
株式会社栗村製作所 正垣幸雄 (42期)	電話 06(341)1751	株式会社日建設計 木原多佳雄 (43期)	電話 06(201)1821	日本ユニシス株式会社 関本博 (43期)	電話 06(348)3221
川崎重工業株式会社 澤井正和 (43期)	電話 078(360)8666	株式会社日建設計 花木輝樹 (43期)	電話 06(909)9415	川崎重工業株式会社 坪内邦一 (43期)	電話 075(561)5615
淺沼組厚生年金基金 福原哲男 (43期)	電話 06(768)52202	松下電工株式会社 山田隆 (44期)	電話 078(251)4101	ニチアス株式会社 川端重隆 (44期)	電話 078(921)1630
株式会社ミズワン 矢野彰一 (50期)	電話 06(264)5731	神鋼リース株式会社 山田隆 (44期)	電話 078(261)6649	川崎重工業株式会社 藏田寛 (44期)	電話 075(561)5615

村上法律事務所

弁護士 村上充昭 (39期)

弁護士 村上恵美子

事務所 〒530 大阪市北区西天満4丁目6番19号
北ビル2号館5階502号室
TEL 06(365)7005 FAX 06(365)0819

株式会社 共栄

代表取締役 野上弘治 (38期)

〒530 大阪市北区南森町2丁目3番5号
電話 06(311)7659番 (代表)
(312)7213番 (代表)
FAX 06(312)4980番 営業部
(312)6229番 経理部

旭陵同窓会関西支部役員

○印新任

	氏名	期	電話番号	勤務先
支部長	空谷俊和	27	075-365-7512	京都ステーション
副支部長	瀬口猛	30	06-364-9117	弁護士
〃	安野洋一	33	075-251-5585	京都府立医大
幹事長	内藤尚	31	06-648-2423	クボタ
事務局長兼会計	甲斐敏晴	31	0726-81-5717	みどりケ丘病院
会計監査	石坪英郎	18	075-611-9507	エフエム伏見
顧問	野瀬清	17	075-581-0144	歯科医
常任幹事	栗屋保昌	32	06-678-6111	関西交易
〃	瀬戸戸房康	32	0729-24-2598	近畿マシナリー
〃	岡本三樹	33	06-536-7810	鹿島建設
〃	福田猛彦	35	06-244-3733	鴻池組
〃	古島正晴	35	06-202-2251	富士銀行
〃	村上充昭	39	06-365-7005	弁護士
〃	山内英雄	40	06-338-5000	大住建設
〃	後田敏夫	42	06-539-7506	網洋
〃	○末光久	42	06-949-2272	松下電器
〃	○杉顕紹	43	06-348-3221	東洋紡
〃	○矢野彰一	50	06-264-5731	ミズワン
〃	○永地英仁	52	06-266-8045	帝人商事
〃	阿部紀一郎	54	078-360-3009	大阪ガス

今年の冬は、なぜか特別に雪が少なかった。下関の話ではない。長野県の各スキー場の話である。

昔、「修学旅行」と呼ばれたものは、今では「校外研修」と呼ばれ、「スキー研修」となっている。

戦前は、下関から船で大陸に渡ったと記されている。今に伝わる「天下第一関」も、この修学旅行のお土産として持ち帰ったものだと伝えられたことであるようである。

戦後は、いつ頃から再開されたかはよく分からぬが、夏休み、または春休みに、東京方面や京都・奈良方面などに分かれ、それぞれ出かけたようである。昭和三十五年の東京方面の修学旅行でちよつとした事故があり、以後、この方面的旅行はなくなつたようである。

希望者による修学旅行から、全員参加へとかわり、一時は、拠点方式と呼ばれ、三日間同じ宿に泊まり、そこから色々な場所へ生徒が計画し、見学す

校内幹事 大場仁史(42期)

「旭陵同窓会と下関この一年」

旭陵同窓会幹事長 石原忠夫(32期)

本部もまたできるだけ多くの役員を派遣する方針で臨んできたが、そろそろもうその必要性もなくなつたといえどもしている。

ここらで、同窓会を離れて地元下関市の現状を語らねばならない私だ。支部幹事長内藤尚先輩からの命令である。

慌てて、新聞の綴込みを漁つてみた。一口にいえば代わり映えしない下関市という感が強いが、その中から一二記事を拾つてみる。

正に「さわやか」であった。

○佐藤定雄大先輩(1期)が亡くなられた。総会には毎回出席くださつた。

「旭陵」の歴史そのものの方であつた。

な講演でもがむしゃらに引き受けたこと。地方作家としての孤独に悩まされたことは、いやな原稿でも、どの様

いた。

（芭蕉）の言葉を贈られ、この言葉に励まされて今日があること。四十五才で新

づか数年でスキー研修へと変わつてい

った。

平成元年にも雪不足があつた。この

時は、一時間位滑つただけで、後は降

る雪を見て過ごしたという。翌年、下

関地方は三十年何年振りの大雪で、集

合に間に合わず、四十人位が遅れてく

るという事態になつた。長野の雪も多

く、楽しい研修となつた。

さて、昨年度は、二学期末の考查後

の出発だったが、心配した通り雪がない。しかし今回、業者の素早い対応

で、更に奥の新潟県境に近い奥志賀までバスで移動し、貸し切りに近いゲレ

ンデで滑ることができた。

近年は、金額や日数の制限が緩和さ

れ、国外旅行も可能になつた。生徒に

楽しみの修学旅行も、教師の側からは

なくなつて欲しい行事ではあるが、そ

うもいかないだろう。

同窓会本部で実働可能な常任委員は忍自重を貫いたが、同窓会が必要とする真の力は金というよりも人である。

同窓会本部で実働可能な常任委員は二百六十名。数に不足はない。が、例えれば、四月十五日の常任委員会は出席五百四人、委任状送付百九人である。席はもちろん委任状返送されなかつたというのが現状である。

もちろん、それぞれに事情はあることだし、ご欠席の常任委員を責めるのもない。

だが、中には、それが恒常的となつてゐる期と委員がいるのも確かである。これでは総会通知ひとつ同期の会員に伝わらないだろう。

その意味で、旭陵同窓会は危機を迎えていると言つて過言ではない。

もちろん、同窓会はボランティア活動によつて成り立つている。常任委員こそその例外ではない。年二回の常任委員会はもちろん本年十二月発行の会員名簿の作成に当たつても名簿委員を兼務している方がいるし、総会会員券の配布にまで気配り足運びをした筈である。厄介な仕事を黙々と引き受け願つてゐるのが常任委員の方々だ。その努力とご尽力の上に同窓会そのものが成り立つてゐる。支部運営も例外ではないと察する。

まさに、旭陵同窓会の力は常任委員制度にある。

「修学旅行」今昔

今年の冬は、なぜか特別に雪が少なかつた。下関の話ではない。長野県の各スキー場の話である。

昔、「修学旅行」と呼ばれたものは、今では「校外研修」と呼ばれ、「スキー研修」となっている。

戦前は、下関から船で大陸に渡つたと記されている。今に伝わる「天下第一関」も、この修学旅行のお土産として持ち帰つたものだと伝えられたことであるようである。

戦後は、いつ頃から再開されたかはよく分からぬが、夏休み、または春休みに、東京方面や京都・奈良方面などに分かれ、それぞれ出かけたようである。昭和三十五年の東京方面の修学旅行でちよつとした事故があり、以後、この方面的旅行はなくなつたようである。

希望者による修学旅行から、全員参加へとかわり、一時は、拠点方式と呼

ばれ、三日間同じ宿に泊まり、そこか

ら色々な場所へ生徒が計画し、見学す

る方法もあつたが、準備に時間がかかる、行つてから戸惑うこと多く、わざか数年でスキー研修へと変わつてい

った。

平成元年にも雪不足があつた。この

時は、一時間位滑つただけで、後は降

る雪を見て過ごしたという。翌年、下

関地方は三十年何年振りの大雪で、集

合に間に合わず、四十人位が遅れてく

るという事態になつた。長野の雪も多

く、楽しい研修となつた。

さて、昨年度は、二学期末の考查後

の出発だったが、心配した通り雪がない。しかし今回、業者の素早い対応

で、更に奥の新潟県境に近い奥志賀までバスで移動し、貸し切りに近いゲレ

ンデで滑ることができた。

近年は、金額や日数の制限が緩和さ

れ、国外旅行も可能になつた。生徒に

楽しみの修学旅行も、教師の側からは

なくなつて欲しい行事ではあるが、そ

うもいかないだろう。

同窓会本部で実働可能な常任委員は二百六十名。数に不足はない。が、例えれば、四月十五日の常任委員会は出席五百四人、委任状送付百九人である。席はもちろん委任状返送されなかつたというのが現状である。

もちろん、それぞれに事情はあることだし、ご欠席の常任委員を責めるのもない。

だが、中には、それが恒常的となつてゐる期と委員がいるのも確かである。これでは総会通知ひとつ同期の会員に伝わらないだろう。

その意味で、旭陵同窓会は危機を迎えていると言つて過言ではない。

もちろん、同窓会はボランティア活動によつて成り立つている。常任委員こそその例外ではない。年二回の常任委員会はもちろん本年十二月発行の会員名簿の作成に当たつても名簿委員を兼務している方がいるし、総会会員券の配布にまで気配り足運びをした筈である。厄介な仕事を黙々と引き受け願つてゐるのが常任委員の方々だ。その努力とご尽力の上に同窓会そのものが成り立つてゐる。支部運営も例外ではないと察する。

まさに、旭陵同窓会の力は常任委員制度にある。

その意味で、旭陵同窓会は危機を迎えていると言つて過言ではない。

もちろん、同窓会はボランティア活動によつて成り立つている。常任委員こそその例外ではない。年二回の常任委員会はもちろん本年十二月発行の会員名簿の作成に当たつても名簿委員を兼務している方がいるし、総会会員券の配布にまで気配り足運びをした筈である。厄介な仕事を黙々と引き受け願つてゐるのが常任委員の方々だ。その努力とご尽力の上に同窓会そのものが成り立つてゐる。支部運営も例外ではないと察する。

まさに、旭陵同窓会の力は常任委員制度にある。